

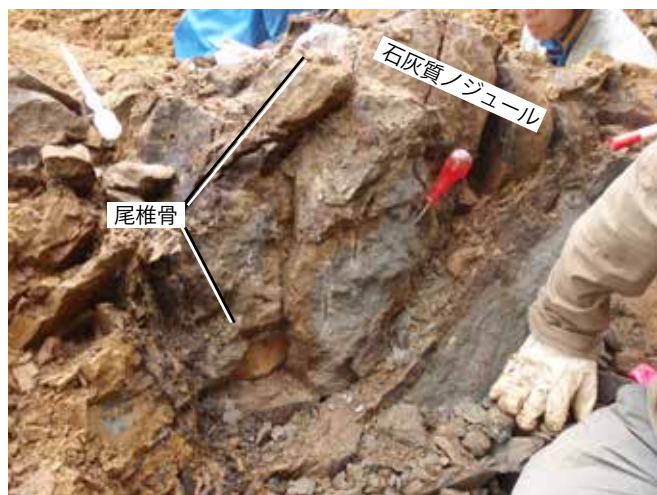
穂別恐竜化石発掘 2013 年報告①



尾椎の続きの部分がでてきたとき (9/6)



重機で化石層の下位側を掘る (9/7)



母岩とノジュールから尾椎の続きの部分が
出てきたとき。地層の下位側からみた写真。
(9/7)

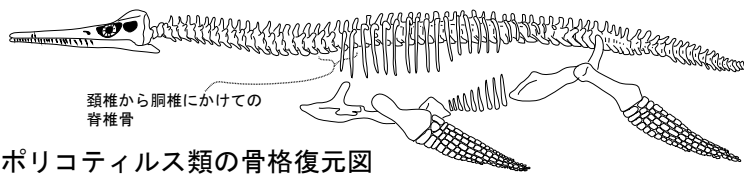
穂別地域からすでに発見されている尾椎骨（びついこつ、尾の骨）とその産状から、ハドロサウルス科恐竜の全身骨格が埋没している可能性があったため、北海道大学・北海道大学総合博物館と共同で発掘を行いました。穂別博物館と北海道大学などの関係者計 28 名、毎回 7～10 名ほどが作業に参加しました。発掘は 9/2 から開始し、10/5 までの間の計 28 日間行いました。

恐竜の死体が海底に沈み、海底面上に全身骨格が散在している可能性が高かった一方で、海底に沈むまでの間に頭部などが腐って別の場所に落ちてしまい全身骨格が残っていない可能性や、恐竜の死体が海底に沈んだ後に大型の海生生物（例えばモササウルスやサメなど）によって食い荒らされ、バラバラにされた結果、全身骨格が残っていない、あるいは回収できない可能性もありました。発掘してみないと、どれだけの部位が残っているのか分からなかったため、ほとんど化石が出ないという不安もわずかにありました。

恐竜化石が横たわっている海底面が、現在では地層面としてはほぼ垂直に立っていること；やわらかい地層・母岩中に入っている化石は風化してもろくなっていること；それら地層の一部が硬い石灰質ノジュールとなり、これが骨化石も部分的に覆っているため、それらを取り分けるのが難しいことが発掘開始前から想定されていました。発掘をしてみると、それら想定通りでした。

発掘が始まると、尾椎の続きの部分が、はじめは母岩から、その後は母岩とノジュールから出てきました。 (学芸員 西村智弘)

首が短いクビナガリュウ；ポリコティルス類②



ポリコティルス類の骨格復元図

国内でこれまでに5個体（穂別博物館収蔵資料は3個体）しか報告されていない種類のクビナガリュウのうちの一つを紹介します。



けいつい 頸椎から どうつい 胴椎にかけての脊椎骨

10 cm

発見の経緯：1986年7月に千代川謙一氏（故人、千歳化石会）が小平町達布（たっぷ）地域で発見・採集し、穂別町立博物館に寄贈しました。近年まで、長頸竜亜目（分類未詳）とまでしか分かっていませんでした。

登録番号：HMG-357 産出部位：頸椎から胴椎にかけての脊椎骨5つ、肋骨8本、クラビキョウラー・アーチ（左右の鎖骨と間鎖骨が癒合したもの）、左肩甲骨の一部（全長約4m）

産出地：小平町達布小平藁（おびらしべ）川下流（現在は小平ダムの底）

地質年代：白亜紀チューロニアン期中期（約9,100万年前）

研究：2010年から佐藤たまき先生（東京学芸大・准教授）が研究を始めた結果、ポリコティルス科長頸類であることが明らかになってきました。2012年に学会の口頭発表*で、それらについて報告を行いました。現在は研究のため標本を貸し出しています。

*佐藤・西村，2012．日本古生物学会2012年例会

（学芸員 西村智弘）

[アクセス]



開館時間 9:30~17:00（最終入館16:30）

入館料 個人/小～高校生：100円

大人300円

団体/小～高校生：50円

大人200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

11月 休館日

5(火) 6(水) 11(月)
18(月) 25(月)

12月

2(月) 9(月) 16(月)
24(火) 25(水) 30(火)
31(水)

特定入館日

（町民入館無料日）
11月3日（日・祝）
11月23日（土・祝）